

NAGOYA CITY MUSEUM NEWSLETTER

季刊

vol.

206

名古屋市博物館だより

編集・発行／名古屋市博物館 〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1
TEL (052) 853-2655 FAX (052) 853-3636 <http://www.museum.city.nagoya.jp>

平成25(2013)年7月1日発行 (年4回1・4・7・10月)
3,800部発行 無料 古紙パルプ配合再生紙使用

どうして 名古屋市博物館でマジックの展覧会なの？



平成25年夏休み特別展

★ザッツ エンターテインメントショー★

マジックの時間

平成25年7月20日(土)→9月1日(日)

観覧料 一般 1,000(800)円 高大生 600(400)円 中学生以下無料
()内は前売・20名以上の団体料金

主 催 名古屋市博物館・日本経済新聞社・テレビ愛知
開館時間 午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日 7月22・23・29日 8月5・12・19・26・27日

はい、どうぞいらっしやいませ。ちょうど展覧会が始まります。ただいまから、特別に展覧会の見どころをコッソリお伝えいたします。こんな変わった展覧会は、日本全国津々浦々、どこをさがしても見る事ができません。ここだけの話、名古屋市博物館が初めてでございます。

この展覧会は、楽しいマジックの世界、不思議な世界を紹介します。江戸時代の見世物に登場したマジック、手品の秘密を記した伝授本、明治のスーパースター松旭斎天一(しょうぎょくさいてんいち)や女性マジシャン松旭斎天勝(てんかつ)など、約215点の資料を展示し、様々な角度からマジックの歴史に迫ります。

それだけじゃあ、ございません。展覧会のすざいところは、ここからです。なんと、会期中、毎日、展示の見どころをおもしろおかしく解説する口上芸人が出演します。江戸時代の見世物小屋に登場したという口上を落語家、講談師たちが務めます。音声ガイドではない、生ならではの軽妙な語り口をお楽しみくださいませ。

また、マジックのおもしろさを伝えるには、生で見てもらうのが一番です。ですから、毎日、展示室でプロマジシャンのマジックショーを行います。それから、マジックを体験できるワークショップも用意いたしました。

このような、「見る、聞く、体験する」の三拍子がそろった展覧会は、他では絶対味わえません。楽しいことがいっぱい『マジックの時間』へ、みなさま、どうぞおこしください。

古池麟林(こいけりんりん)

所蔵者の明記がない資料はすべて河合勝コレクションです。

マジック展を100倍楽しむために ココに注目せよ

夏休みは、博物館からスタート

マジックショー

おもしろ口上

10時30分、11時、13時30分、13時、15時



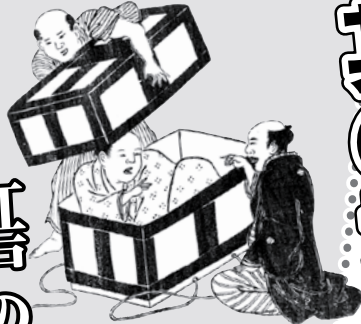
落語家・雷門獅寛

展示をおもしろく解説します。

世界で初めて、展示室でおもしろ口上とマジックショーを毎日行います。落語家、講談師の話芸とプロマジシャンの多彩な技をお楽しみください。

講談師・古池鱗林

其のマジックをみる、口上を聞く。



『盗席玉手妻』寛政11年(1799) 河合勝コレクション

江戸の脱出イリュージョン。

暑さも吹き飛ぶ、妖怪手品。

妖怪手品。



『絵本一興鑑』明和5年(1768) 河合勝コレクション

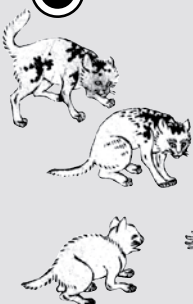
ネロちゃん

答えは会場で……

曲独楽師・柳家三亀司

其のきむがしのマジックを知る。

江戸時代の手品の教科書、伝授本をひもとくと、へんてこな手品がいっぱいです。さあ、何問、解けるかチャレンジしてください。



『天狗通』安永8年(1779) 河合勝コレクション

落語家・雷門幸福

日

月

火

水

木

7月

20 田中大貴
古池鱗林

21 田中大貴
雷門獅寛

22 休館日

23 休館日

24 田中大貴
雷門幸福

25 田中大貴
雷門福三

26 田中大貴
柳家三亀司

27 田中大貴
あ お き

28 あ お き
雷門幸福

29 休館日

30 田中大貴
雷門獅寛

31 田中大貴
雷門福三

8月

1 田中大貴
柳家三亀司

2 田中大貴
古池鱗林

3 田中大貴
雷門獅寛

8 あ お き
古池鱗林

9 タック!!
雷門獅寛

10 あ お き
雷門幸福

4 田中大貴
雷門福三

5 休館日

6 あ お き
雷門幸福

7 あ お き
柳家三亀司

15 田中大貴
あ お き

16 田中大貴
雷門獅寛

17 田中大貴
古池鱗林

11 あ お き
柳家三亀司

12 休館日

13 あ お き
雷門福三

14 あ お き
古池鱗林

22 田中大貴
雷門獅寛

23 田中大貴
雷門幸福

24 田中大貴
雷門福三

18 田中大貴
雷門幸福

19 休館日

20 あ お き
雷門福三

21 あ お き
柳家三亀司

29 天 平
あ お き

30 天 平
古池鱗林

31 天 平
あ お き

25 あ お き
柳家三亀司

26 休館日

27 休館日

28 田中大貴
古池鱗林

柳家三亀司

9月

1 田中大貴
雷門獅寛

上段は、マジックショー出演のマジシャン。
下段は、展示室をおもしろく解説する、おもしろ口上の芸人です。
スケジュールは、あくまで予定です。サプライズショーもあるかも…。
都合により出演者が変更となる場合がありますので、ご了承ください。

落語家・雷門幸福

上段は、マジックショー出演のマジシャン。下段は、展示室をおもしろく解説する、おもしろ口上の芸人です。スケジュールは、あくまで予定です。サプライズショーもあるかも……。都合により出演者が変更となる場合がありますので、ご了承ください。

落語家・雷門福三

其の参

I ♥ MAGIC
マジックワークショップで
マジシャンになる。

科学・推理・工作・カードなど、たくさんさんのマジックを用意しました。
夏休みの宿題や自由研究に、ぜひどうぞ。
講師・名古屋大学奇術研究会、名城大学マジックサークル「しゃっふる」



奇術研究家
河合勝先生

夏の宿題はこれで決まり。
10時〜12時・13時〜16時

展示室で
スクープ特集
に変えてごらんにいれます！



「石橋 早竹虎吉
西両国に於興行仕候」
安政4年（1857）
河合勝コレクション

夏休みだから♥博物館を
エンターテインメントショー

其の四
太極フンのイベントがもりだくさん。

曲独楽師・柳家三亀司



落語家・雷門獅竜



はくぶつかん 演芸の日

大須演芸場出演の芸人たちが、展示室でパフォーマンスします。
博物館1階展示室14:00開演
観覧には、展覧会入場券が必要です。
中学生以下は無料。

7月27日(土) あおき三朝+うたこ(ジャグリング・マジック)
8月3日(土) 雷門獅竜(落語)
8月4日(日) 雷門福三(落語)
8月18日(日) 雷門幸福(落語)
8月25日(日) 柳家三亀司(曲独楽)
8月30日(金) 古池鱗林(講談)

要入場券

講演会 プラス マジック教室・マジックショー

博物館講堂(先着220名 聴講無料)
14:00開演(13:30開場) 全席自由
※12:30より整理券を配布します。
7月28日(日)・8月1日(木)
河合 勝(奇術研究家・元愛知江南短期大学教授)
「日本奇術発展(にほんきじゅつはってん)の種明かし(たねあかし)」



おどろきのマジックタイム

博物館講堂(先着220名 一般500円・高大生300円・小中生100円)
展覧会入場券(半券)をお持ちの方は200円割引 1枚につき1回有効
14:00開演(13:30開場) 全席自由
チケットはショー当日9:30より、展覧会入口にて販売します。
定員となり次第、販売は終了いたします。
7月20日(土)・7月21日(日)・8月24日(土) タクマ
7月26日(金)・8月2日(金) 風船太郎
8月17日(土)・9月1日(日) 田中大貴

有料

風船太郎



タクマ・みゆき



平成25年夏休み特別展

★ザッツ エンターテインメントショー★

マジックの時間

開館 36 周年
エンタメ博物館宣言

常設展フリールーム

いざ編まん！ 信長の歴史

平成25年8月28日(水)～10月20日(日)

信長の孫の孫 織田長清

戦国の世を切り開き、激動の時代に大きな足跡を残した織田信長。しかし江戸時代になると、信長を直接知る人は減り、その事蹟も太平の世に埋もれていきます。そんな中、今日まで信長の歴史が伝えられた背景には、先祖のために努力を惜しまなかった信長の子孫がいました。それが織田長清です。

○長清のおいたち

長清は、寛文2年(1662)に大和国松山藩(現在の奈良県宇陀市)3代藩主織田長頼の三男として生まれました。松山藩の初代藩主は信長の次男信雄であり、つまり長清は信長のやしやごにあたります。後に織田一族で信長の弟である長益(有楽斎)の四男長政を初代藩主とする大和国戒重藩(同県桜井市戒重)の養子となり、天和3年(1683)に4代戒重藩主となりました。戒重藩は長清の代に芝村(同市芝)へ屋敷替えを願い出、後に芝村藩となります。

長清は藩校を設立するなど好学の藩主として知られますが、次第に自らのルーツである織田家の歴史に強い関心を寄せるようになります。

○『織田真紀』の編纂

長清は元禄9年(1696)、30代中頃から京都の漢学者・北村可昌を師と仰ぐようになります。すでに慶長19年(1614)、小瀬甫庵の『信長記』が刊行されていましたが、その内容に不満を持った長清は、自ら先祖信長の「正しい」歴史書編纂を思い立ちました。信長

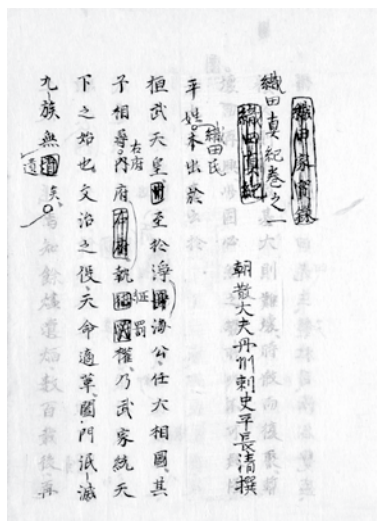
ゆかりの寺社や信長旧臣の子孫から信頼できる史料や情報を集め、「織田一族による信長の一代記」を目指したのです。そして享保3年(1718)に私家版として刊行されたのが『織田真紀』全15巻です。

現在『織田真紀』には、その編纂過程を覗わせる数種の稿本が残されています。写真①草稿本からは、題名の候補がいくつかあり、決定していなかったことが判ります。写真②は「初版」ですが、出来に不服があった長清は1年で改訂を命じ、初版に手書で訂正を加えています。③が訂正を反映した改訂用の原稿ですが、結局刊行は叶いませんでした。いわば幻の完成形『織田真紀』と言えるでしょう。

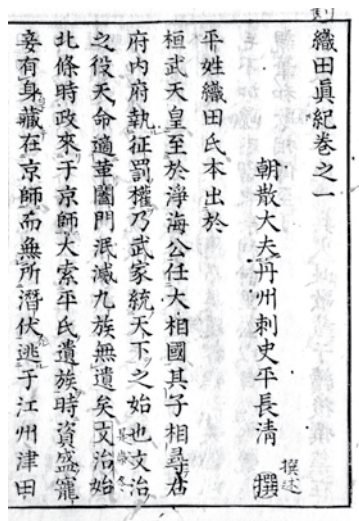
○『信長公記』と長清

『織田真紀』編纂の過程で、長清が底本としたのが、信長の家臣である太田牛一が著した記録『信長公記』でした。現代では桶狭間の戦いや安土城等の詳細な記述で有名な『信長公記』ですが、版本で広まった甫庵著『信長記』に対し書写でしか伝わらなかったため、当時は「知る人ぞ知る」信長の情報源でした。『信長公記』の重要性を感じた長清は、より確実な情報を求めて牛一の自筆にこだわり、その著作を蒐集したのです。実は、現在重要文化財に指定されている京都・建勲神社蔵牛一自筆『信長公記』は、かつて長清の所蔵でした。現在では所在不明になっている『信長公記』首巻の牛一自筆本もかつて長清の許にあり、当時は『附録』と呼ばれていました。

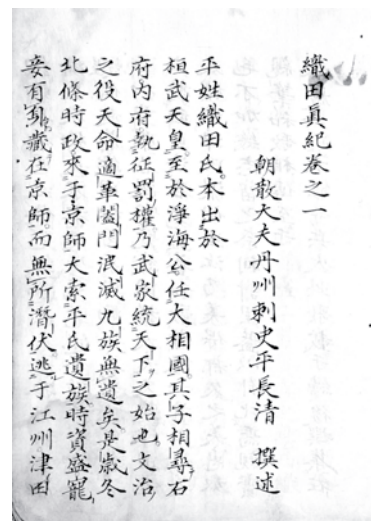
今回のフリールームでは、『信長公記』の重要性を見だし、信長の事蹟を史料に基づいて明らかにしようとした長清にスポットをあて、彼を取りまく人間関係とあわせてご紹介します。(岡村弘子)



①『織田真紀』草稿
題名候補には『織田家実録』等があった。



②『織田真紀』版本 享保3年刊行
改訂が必要となり、手書で訂正を記している。



③『織田真紀』重版稿本
②を訂正して全て書き直したもの。
①～③いずれも個人蔵

座談会

学芸員、
「名古屋城下お調べ帳」を語る

4月25日、「名古屋城下お調べ帳」が発売されました。今回、その作成に携わった学芸員たちが集まり、「お調べ帳」について、さらに学芸員の使命について語り合いました。

《座談会参加者》



山本祐子
博物館学芸員



松村冬樹
蓬左文庫調査研究員
(元博物館学芸員)



種田祐司
博物館調査研究員
(元博物館学芸員)

★きっかけは19年前！

—まず、「名古屋城下お調べ帳」はどういうものなんでしょうか？

山本：DVDと冊子、地図の3点セット。DVDでは、名古屋の城下町を復元した地図と今を比べることができたり、尾張藩士の履歴などを検索できたり、いろんなデータベースが入っています！冊子には用語集などが付いてて、地図は幕末の尾張城下町の様子を表したものです。

種田：尾張藩士を調べるとき、わざわざ図書館に行ったり、本を一冊ずつ調べたり…、時間や手間がかかった。それがこのDVDを使えば、検索して5万件の藩士の中から瞬時に見付けることができるってところがいい。

—5万件！すごい量ですね。いつごろから準備をされたのでしょうか？

松村：平成6年頃から蓬左文庫の黄木宏行さん（故人）がくずし字で書かれた『藩士名寄』を読み起こしたことが出発点だね。それがデータ化されたものを基に、データベースを作ることにしたんだ。

山本：紙ベースも必要だけど、紙は増えれば増えるほど、自由自在に使えないからね。

松村：ぼくは考古学の学芸員だけど、データベースを作ることには興味が元々あって…。それに、尾張藩の公式記録として残る藩士の履歴は、数万件というデータベースに適当な量。1000件以下なら、紙のリストでも対応できるからね。データベースの最大の利点は、検索（探す＝「ある」）することとされているけど、「その中にない」ことが瞬時に分かること。「ある」

という証明より、「ない」っていうことを証明する方が難しいでしょ？

★学芸員として…！

松村：このデータベースを作ることには、学芸員として意義があることなんだ。学芸員って、資料を収集して「資料カード」を書いたり、研究をしてその成果を展覧会にして「図録」に残してるんだけど、それって学芸員がしていることのほんの一部が表に出ているだけだね。

山本：確かに。展覧会をするためにどれだけの調査や知識を取り込むか…！

種田：でも、展覧会の成果はそのほとんどが担当者の頭に残っていて、その人がいないと活用できない。せっかくの成果が他の人たちが使えない。これからは、それではだめだと思うよ。

松村：学芸員の仕事の中身は、フロー（消費）ではなく、ストック（蓄積）であるべき。そのストックを広く知らしめて、活用の幅を広げること、それは学芸員1人の業績を越えて、博物館の業績となり、歴史（評価）になるんだよね。

★今後にむけて

—「名古屋城下お調べ帳」は、いろんな展覧会での各学芸員の成果を合わせたものなんですね。



松村：それに改良を加えて、より使いやすいようにしているよ。データベースは最初の土台を作るのが、とっても大変で、やり遂げるのが難しい。今回それができたんだ。

山本：これができたら、もう3分の2はできたかな？

松村：いや、まだ入り口だよ。そのデータベースに別の新しい情報を加えていけば、もっと多彩な展開が生まれるはずなんだ！

—そういつて、「〇〇もデータベースに入れよう！」「こういうのを今作ってるんだ」…、と新しいデータベースの材料について盛り上がる3人でした。

学芸員の長年の成果を広く活用することのできる「名古屋城下お調べ帳」。ご興味のある方は、ぜひともお手に取ってご活用下さい。（文責：佐野尚子）

名古屋城下お調べ帳

3点セット

DVD 冊子 地図

内容・購入方法は、博物館ホームページをご覧ください。

アッ！
猿猴庵の家、
発見！！

活用の仕方は、あなた次第！

価格…1セット2,500円
(地図のみ別売可500円)

名古屋市博物館 特別コレクション展

尾張のやきものー古陶を楽しむ!

平成25年9月14日(土)～10月14日(月・祝)



鉄釉狛犬 瀬戸窯 室町時代

名古屋市博物館は、これまでやきものを収集の一つの柱としてきました。尾張に関わる古代・中世のほぼ完形のやきものに限っても400点以上、この中には重要文化財1点、愛知県指定文化財1点を含みます。また、在野の研究者らが戦前から戦後にかけて収集した、窯跡出土資料が約200件あり、現在では失われてしまった遺跡の資料も含みます。

今秋に行う特別コレクション展では、当館が所蔵するこれらの資料(一部寄託資料を含む)の中から、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瀬戸、常滑など、古代から中世の尾張周辺でつくられたやきものを大々的に展示します。

尾張のやきもの

尾張は現在でも瀬戸窯や常滑窯など窯業が盛んな地域ですが、尾張のやきものは、実は名古屋市域からはじまったと言えます。東海において最も古い須恵器窯が約1600年前の昭和区周辺で見つかっているか

らです。その後も中世にかけて、名古屋市東部の丘陵地帯からみよし市、日進市、東郷町などを含むおよそ20キロメートル四方にわたって、約1000基をこえる数多くの窯がつくられました。これらの窯跡を猿投山西南麓古窯跡群、略して“猿投窯”と呼んでいます。

猿投窯で生産された古代の須恵器、灰釉陶器などは宮都や各地の官衙、寺院などの遺跡で数多く出土しています。製品の技術的な高さや供給量から、猿投窯が当時の窯業の中心地であったといって過言ではありません。

中世には猿投窯から発展して、瀬戸窯では優美な灰釉や鉄釉を施した陶器を唯一生産し、常滑窯では荒々しい焼きしめ陶を生産するなど、それぞれ特徴あるやきものが生み出され、尾張は国内でも有数の窯業地として日本全国にやきものを供給し続けました。

このように、やきものは全国に通用する尾張の“ものづくり”産業の原点ともいえる存在なのです。



1



2



3



4



5

- 1 緑釉四足壺 猿投窯 平安時代
- 2 人面陰刻匣鉢 平安時代
- 3 経筒外容器 猿投窯 平安時代
および経筒・経巻
- 4 重要文化財 灰釉魚波文瓶子 瀬戸窯
鎌倉時代 岩手県西磐井郡花泉町老松出土
- 5 甕 常滑窯 平安時代

古陶を楽しむ 展覧会のツボ

学芸員は、やきものを見るときにどのようにして見るのでしょうか。時にはやきものの裏や内側



を“なめる”ように観察したり、実際に手に取ったり、似たものを見比べるなど様々な方法で観察します。やきものは、一つ一つに隠された情報があり、それぞれが楽しい(興味深い)ものです。

例えば、重要文化財の魚波文瓶子(左ページ No.4)。この瓶子は、均整のとれた形で、灰釉が全体に施され、一部は流れたために縦縞の模様となっています。胴体は、三尾の魚と波・幾何学的な模様を描いていますが、これほどまでにびっしり埋め尽くした例はなく、模様の海を泳ぐ魚は見ているだけで楽しくなります。

中をのぞきこんだり、表面を触ってみると、ひも状の粘土を積み上げて形をつくり、細い首や口の形を丁寧に整えて作っていることがわかります。

さらに、この器は岩手県の火葬墓から見つかり、男性の骨がおさめられていたと伝わります。類例を調べると、当時の壺類は、埋葬するための器としても使われたという、驚きの使い方も知ることができます。

資料と向き合っている時が、学芸員にとっては至福の時。こうした楽しみを少しでも体験できる展示や解説を工夫しながら、尾張のやきものの基礎知識と基本をわかりやすく紹介します。

さて、この展覧会を楽しんでいただくための3つの“ツボ”があります。

ツボ1 見て楽しむ

やきものの楽しみは、形の美しさや偶然の焼け具合の妙、土の色と釉のハーモニーなどを鑑賞することにもあります。もっと単純に、愉快的表情の狛犬、愛らしい鳥や魚、華麗な花や草模様などに会おうと自然と心が和みます。昔の人々がつくりあげた様々な造形美を楽しんでください。

ツボ2 知って楽しむ

今回の展覧会では古代から中世にかけて生産された様々な種類・形のやきものをまとめて見ることができます。

何に使われたのか、いつのやきものか、釉薬の種類は何か、それぞれ基本的なことから解説しますので展覧会を見終わるころには、やきもの学芸員になれるかも!?

ツボ3 触れて楽しむ

やきものは土や焼き方、釉薬のかかり具合によって一点一点その肌触りは全く異なります。そうし

た肌触りや重さ、硬さの違いを一部の資料に実際に触れることで実感できます。

また、壺の中をのぞきこんでみるとそこには・

様々な見方で、皆さんにそれぞれのやきものの楽しみ方を発見できるよう計画中です。

まだまだ楽しむ 関連事業・出版物

○講演会

ひびき合うやきもの 一須恵器・灰釉陶器&常滑・瀬戸ー

講師 名古屋市博物館資料委員・愛知学院大学非常勤講師 赤羽一郎氏

日時 9月14日(土)14:00～

12:30より整理券配布。13:30開場

場所 博物館地下1階講堂

先着220名 聴講無料

常滑焼の研究者である講師から、専門家ならではのやきものの楽しみ方をお話いただきます。

○ギャラリートーク

展覧会場にて学芸員が展示のツボを解説します。

日時 会期中の毎週日曜日 13:00から約45分間

場所 展示会場(博物館1階特別展示室)

各日展覧会チケットが必要です。

○博物館資料図版目録の刊行

名古屋市博物館が所蔵する尾張の古代から中世のやきものを網羅した図版付目録を刊行します。

さらに、会期中に名古屋市立大学の協力により3D技術を利用した体験講座を計画中。詳細はチラシ・博物館公式ウェブサイトでお知らせします。

(瀬川貴文・五味良子)

愛知県指定文化財 魚波文四耳壺(部分)



尾張のやきもの ー古陶を楽しむ！

平成25年9月14日(土)～10月14日(月・祝)
午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(休日の場合は直後の平日)
[9/17(火)、9/24(火)、9/30(月)、10/7(月)]

主催 名古屋市博物館

観覧料 一般 300円(250円)、高大生 200円(150円)、
市内在住65歳以上(要敬老手帳等) 100円
()は30名以上の団体 中学生以下無料

※本展チケットで常設展もご覧いただけます。

よみがえれ文化財！

優れた文化を、名古屋の歴史を、後世に伝えるために。

名古屋市博物館では、貴重な博物館資料を修復・活用するために広く教育基金への寄附を募っています。

名古屋市博物館は、開館準備段階から名古屋や日本の優れた歴史や文化を語る資料を収集してきました。現在所蔵する資料は23万点を超え、これらの資料は、現状を悪化させないために温度・湿度を一定に保った収蔵庫で保管されています。名古屋の歴史や日本文化を物語る資料を適切に保管し、未来に伝えることが、博物館の重要な、根本的な使命であるからです。

しかし、その中には、貴重なものでありながら、劣化が進んでいるため、そのままでは展示・活用できないばかりか、壊れてしまう危険さもあるものがあります。

平成23年に寄贈された「伊勢参宮図屏風」は、伊勢への参宮の様子を生き活きと描いた、17世紀後半の貴重な作品です。これまで個人の方によって大切に保管されてきましたが、長い年月の経過のため、骨組みが歪み、絵の具の剥落が起きています。このままでは長期の展示をすることはできないため、早急に修理する必要があります。

また、平成23年の東日本大震災によって、文化財も大きな被害を受けました。こうした震災に備えるためにも、それぞれの博物館で文化財を保存する枠組みを様々な手段で整えることが求められています。その中で、写真などの映像資料はデジタルアーカイブすることで、より確実に保存することが可能となります。

今回、博物館が始めた「よみがえれ文化財！」は優れた文化財を後世に伝えるために、ご寄附を募る事業です。皆様のご厚志は、博物館資料の、保存・修復・複製製作、資料の活用のための事業、購入などに利用する予定で、当面は以下の事業の実施を目指しています。広く利用者の皆様の理解・応援をお願いいたします。

○伊勢参宮図屏風の修復

～最古の参宮風俗を描く貴重な屏風を後世に伝える～

17世紀後半の伊勢参宮の様子を描いた貴重な屏風。屏風の骨組みが歪んでいるため、下地材を新調し、絵の具の剥落どめ、亀裂の修復を行います。

○古墳時代の刀剣の保存処理

～1400年前の刀剣を守る～

金銅装頭椎大刀や緑区鳴海赤塚古墳出土鉄刀など古墳に副葬された刀剣の錆化が著しいため防錆、欠損部の充填、樹脂による補強を行います。

○名古屋を記録した写真資料のデジタルアーカイブ

～災害、戦後の復興…、喜怒哀楽の記憶を共有する～

戦後の復興や災害の記録、人々の生活を写した名古屋市域を中心にモノクロ写真をデジタル化し公開します。

寄附は、教育基金の専用の納付書で金融機関により手続きできます。博物館で配布していますので、詳細はお問い合わせください(電話052-853-2655)。



伊勢参宮図屏風 江戸時代前期